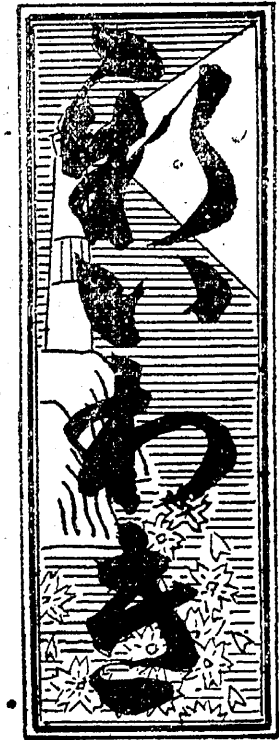


【刊夕日四十二月一十】



今日日曜大祭日
一月廿五日
一月廿六日
一月廿七日
一月廿八日
一月廿九日
一月三十日
一月三十一日

平水道の本田書記 二千六百圓の横領

同人は警中第十四回卒業で

平町水道部書記本田麟太郎の卒業後滿州鐵道會社に
（三）は同地の舊藩士で字八へり大正八年九月二日から
橋小路五七に宅地及び家屋十四年九月十九日までの同
を有し部内の信用を得てあ
たが昨年五月頃から自己受
持の

集金區

である平町の手で前記水道部の集金係
西部方面の収入より最近ま
で二千六百餘圓を横領して
任給で五年の勤続に於てま
ゐることが發覺し目下平署
の取調中である麟太郎の家
計は區内に於ても中流の部
に屬し

水道部

から給され
る月收四十四圓を小使稼ぎ
位に見られ且つ警中第十四

發覺は理事者から

不正金償還残り僅かに 二百卅餘圓だ交友語る

別項平水道部本田書記の横
領について同氏近親某の語
る所によれば酒色におぼれ
る様な男でなく安全な生活
に間違ひの出来たのは私腹
を肥やすと云ふよりも廉潔
が發覺の端緒で害害がな
ければ

藤原の強盜は 懇意の仲 被害者義春は 五週間妻なを は一年で全治

石城郡野崎村の藤原元三井
炭礦の雜貨商野崎義春（三）
方に押入り主人義春及び妻
なを（三）を斬ふせ一物も得
ず逃走したる犯人同郡上遠
野村字野崎キ職上遠野佐
四郎（三）の逮捕は既報の如
く佐四郎は即日平刑務所に
收監されたが犯人は被害者
義春と同郷で三井炭礦に居
る、出品は約三百口で東
都から招聘した

登記を

履んである
のであるから平町には確か
る當時懇意の仲であつた向
に害書がない筈である物堅
い評判で通つた先代拘之助
さんの學を思ふときに麟太
郎君を罪人にしたくないも
のであると

逃げられる十三萬圓 押へ得てホツとする

岡本長者に荒された平地方
四十名に達する米酒雜貨商
警城炭礦社長故淺野翁の信
用をかち得て同礦全社に羽
振をかかし糧送の專權を握
る一方に於ては關東燃料會
社の大興に座り茨城縣の白
萬長者として地方

擔保に

とつて漸く
土浦町の岡本儀平氏が打給
く財界の難波に進退谷まり
て平地方にも商取引の負債
十三萬圓を残し遂に神經衰
弱に罹り衰れ寂しき

病養中

中であるこ
なりそうな場面に陥り再び
地方財界に悲惨な渦を巻起
るとは既報したが右債權者

不景氣底抜の三百口 時價に見て約三萬圓

警城刀劍陳列會に出た古刀
新刀に一口三千圓の逸品

本阿彌

光進先生の
高弟高橋光山氏により鑑定
講評を受け二十三日夜は五
時から一時間餘刀劍各派の
特徴並に名工の流れ其他治
華に就て詳細なる講演あつ
たが出陳の

種類は

古刀が多く
新刀は百口弱に過ぎない特
殊なものとしては
平町古銀治町吉田友一郎
氏の正宗の小月相州正廣
二年月日の署名あるもの
石城郡神谷村長壽男氏の
越中則重の大刀（正宗十
哲の一人）平町田町石山
平一郎氏の志津三郎兼氏
作大刀（小刀並に折
江大棟忠廣の大刀

俳句

江大棟忠廣の大刀
等が主なるもので一口二千
圓乃至三千圓と稱する不景
氣底抜の所藏品が現はれ値
ぶみすれば少なくも三萬圓
以上に達するだらうと云ふ有
名無名が物凄光を放つて
とんだ御厄介に成り申す

液雨

満壽莊主人
宿かして名をなほらす
しぐれ哉 芭蕉
イヤ思はざるしぐれの爲め
とんだ御厄介に成り申す

平の人事

▲出生
平町字仲間町二八 坂本實三男
弘十一月十二日午前六時三十分
平町字杉平五 深谷保次郎長女美
枝子十一月十八日午前七時四十
五分

▲婚姻

平町字木町三四 高橋清（三）と
同町三四吉田（三）十一月
廿二日
平町字鎌田町二四 齊藤慶藏（三）
十一月廿二日午後四時

▲死亡

七）と 栃木縣那須郡黒羽町片田
七三植竹（三）十一月廿二
日
▲死亡
平町字橋小路四 酒井今朝吉
（三）十一月廿二日午前〇時三
十分
平町字三丁目二九 伊佐治孫小野
美勢子（三）十一月二十三日午
後五時

社告

各位の御愛讀、御後援によりま
して社運漸く好況に向ひ平町字
南町廿番地に專屬工場を設くる
事が出来ました紙面も漸次改善
したいと存じて居ります此上こ
もに御鞭撻を賜らんことを御願
致します

新いわき新聞社

尚新聞以外の印刷物も皆様の御高恩
に酬ゆる一端として体裁よく敏活に
破格の廉價を以て應じます多少に拘
らず御用命を御願致します

昭和五年十一月
何の々々其御しんしやくにねんごろの御もてなしに預
は及び申さぬ困る時は誰しり其まじいぬるも本意で御
も同じ事其中雨も止むで御座らぬ某しこそは何のなに
座らう無ゆるりとなされ」がしと申す者」さては衆て
「添けなう在する」「御見受御電名を聞及びし何ごし殿
け申せば此あたりの御仁にておわせしか不思議の辨
も存せられぬ又御様子から面」などと云ふ場面でがな
何かわけありげにも思はれいかにも時雨の雨宿りらし
申てが差支なくば御姓名ない夕立では此趣きは味はれ
と承りたう「名乗り申す程ぬのである。

新いわき新聞社
各位の御愛讀、御後援によりま
して社運漸く好況に向ひ平町字
南町廿番地に專屬工場を設くる
事が出来ました紙面も漸次改善
したいと存じて居ります此上こ
もに御鞭撻を賜らんことを御願
致します

昭和五年十一月
何の々々其御しんしやくにねんごろの御もてなしに預
は及び申さぬ困る時は誰しり其まじいぬるも本意で御
も同じ事其中雨も止むで御座らぬ某しこそは何のなに
座らう無ゆるりとなされ」がしと申す者」さては衆て
「添けなう在する」「御見受御電名を聞及びし何ごし殿
け申せば此あたりの御仁にておわせしか不思議の辨
も存せられぬ又御様子から面」などと云ふ場面でがな
何かわけありげにも思はれいかにも時雨の雨宿りらし
申てが差支なくば御姓名ない夕立では此趣きは味はれ
と承りたう「名乗り申す程ぬのである。

昭和五年十一月
何の々々其御しんしやくにねんごろの御もてなしに預
は及び申さぬ困る時は誰しり其まじいぬるも本意で御
も同じ事其中雨も止むで御座らぬ某しこそは何のなに
座らう無ゆるりとなされ」がしと申す者」さては衆て
「添けなう在する」「御見受御電名を聞及びし何ごし殿
け申せば此あたりの御仁にておわせしか不思議の辨
も存せられぬ又御様子から面」などと云ふ場面でがな
何かわけありげにも思はれいかにも時雨の雨宿りらし
申てが差支なくば御姓名ない夕立では此趣きは味はれ
と承りたう「名乗り申す程ぬのである。

昭和五年十一月
何の々々其御しんしやくにねんごろの御もてなしに預
は及び申さぬ困る時は誰しり其まじいぬるも本意で御
も同じ事其中雨も止むで御座らぬ某しこそは何のなに
座らう無ゆるりとなされ」がしと申す者」さては衆て
「添けなう在する」「御見受御電名を聞及びし何ごし殿
け申せば此あたりの御仁にておわせしか不思議の辨
も存せられぬ又御様子から面」などと云ふ場面でがな
何かわけありげにも思はれいかにも時雨の雨宿りらし
申てが差支なくば御姓名ない夕立では此趣きは味はれ
と承りたう「名乗り申す程ぬのである。

昭和五年十一月
何の々々其御しんしやくにねんごろの御もてなしに預
は及び申さぬ困る時は誰しり其まじいぬるも本意で御
も同じ事其中雨も止むで御座らぬ某しこそは何のなに
座らう無ゆるりとなされ」がしと申す者」さては衆て
「添けなう在する」「御見受御電名を聞及びし何ごし殿
け申せば此あたりの御仁にておわせしか不思議の辨
も存せられぬ又御様子から面」などと云ふ場面でがな
何かわけありげにも思はれいかにも時雨の雨宿りらし
申てが差支なくば御姓名ない夕立では此趣きは味はれ
と承りたう「名乗り申す程ぬのである。

庭業方

除虫菊 栽培法 (三)

播種から 收穫まで

花頭のところから摘取つた花の乾燥法を述べれば三種ある

一、日光乾燥 摘取つた花は日當りのよい處に筵等を敷き其上に擲げて置く擴げた花は一日に三四回反轉して夕刻までに屋内に取込み、翌朝また屋外に持出し前日と同じ様に反轉して三、四日の乾燥後手で揉んで見て粉末となる程度で止める

二、日陰乾燥 風通しのよい室に棚を設けて其上に蘆筵の如きものを載せ更に古新聞紙の類を敷いて花を悉く並べ一日に二、三回反轉しまた棚の上下のものを入れ替へれば一週間位で乾燥が仕上がる

三、火力乾燥 乾燥室を造つて炭火を用ひて乾す棚にかけた花を時々手で反轉しまた棚の上下を差かへる

斯様な方法で乾燥した花はそのまゝ製劑業者に販賣してもよし又自ら粉末としてもよろしい。

貯藏 は乾燥したものは濕氣を受けるとかびがついて成分の効力を減ずるから、ブリキ罐の類に入

れて堅く蓋をなし自張りをして直くと安全である。

ガソリン モビール油 日本石油 株式会社

特約販賣

油問屋 関内商店

支店 郡山市 電話三三八番

支店 茨城県 電話四三三番

支店 平野町 電話四三三番

支店 平野町 電話四三三番

支店 平野町 電話四三三番

支店 平野町 電話四三三番

破格の勉強で 歡迎される

静岡本場 大角園 特約

小笠原茶 約

半谷商店

平大町若松病院隣

七五三御祝着 御婚禮御結納

壓倒的の 繁昌にて 奉仕日延へ 三十日まで

伊関吳服店

平町二丁目角

電話三三三番

引割 一等 二割 二等 三割 三等 五割

電話三三三番

小學生用長ズボン付

特製.....95錢ヨリ

極上品.....140錢ヨリ

中學生用

特製.....170錢ヨリ

極上品.....250錢ヨリ

断然特賣の超尖端

ふゆの通學服

買良き店 5丁目

モリタヤ洋品店

電話352番

入院應需

明雲堂眼科醫院

平野前(電話六六九番)

自炊の便あり

諸毒下りの大妙藥

安流丸

特約山野邊藥局

表代城磐 酒銘

美味經濟 花 油 普 口 マ ヤ

社會名合崎山 番十話電

外科、小兒科 平町、電話五三番

外科、花柳病科

耳鼻咽喉科

レントゲン科

高久病院

院長醫學士高久忠

發賣以來 白熱的に 歡迎せらる

特約店 山野邊藥局 平町五丁目

偉大なる化學の力

ハゲナイ漆器

コワレヌ陶器

容易に破損いたしません

熱湯にも酸類にも胃されません

絶対に變形、變色せず

高尙で優美で一度買ひば 眞に萬代まで使はれます

釜屋商店 器物部

平町(電話九番九九番)

秋のサロン

サロンの黒ビール

天高く 氣朗かに

美味芳醇の 黒ビールを召せ

ンロサ

番二五三電町田

釜屋商店

平町田町通電話六五六番